

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	兵庫県但馬県民局豊岡土木事務所
ふ り が な	しゅようちほうどう とよおかたけのせん きのさきおおはしかけかえじぎょう
1. 事業(施策)の名称	主要地方道 豊岡竹野線 城崎大橋架替事業 (橋梁架替供用完了、旧橋撤去未完了)
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成17年4月1日 ～ 令和7年5月31日
災害枠で推薦の場合	(災害発生日) 年 月 日 (災害名)
3. 事業費(工事費)	23,600百万円(旧橋撤去費含む)
4. キーワード	新たなゲートウェイ、安全安心、観光周遊性の向上、スポーツ振興の促進
5. 事業概要	
城崎大橋旧橋は架橋後約 70 年経過し老朽化のため、安全安心の確保を目的に、架け替える必要が生じた。新橋は、観光地である城崎温泉のアクセス道路にふさわしい景観への配慮、コウノトリの生息する環境に配慮しながら事業を実施し令和7年5月31日開通した。(残事業の旧橋撤去は令和11年3月31日に完了予定)	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
○ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b)PC6 径間連続箱桁橋による景観配慮 (b)張り出し架設工法による架橋 (d)道路排水の油水分離による環境配慮 ()	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)安全・安心の向上 (f)観光周遊性の向上 (f)スポーツ振興の促進 (e)城崎温泉への新たなゲートウェイ	() () () ()

7. 特にアピールしたい点
県内屈指の観光地「城崎温泉」のアクセス道路に位置する城崎大橋の新橋は城崎温泉の玄関口にふさわしい景観に配慮したデザインを採用し、コウノトリの生息する湿地区域における架橋であるため環境調査を実施し、道路排水を直接放流せず油水分離する構造を採用等した。新橋架橋により、交通安全ならびに観光地の周遊性を向上、スポーツ振興の促進に寄与。今後(仮称)城崎温泉 IC まで道路整備も予定されており城崎温泉への新たなゲートウェイとなる。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

新橋全景

「城崎温泉の新たなゲートウェイ、城崎大橋」



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

1 はじめに

県道 豊岡竹野線は、兵庫県北部を東西に結ぶ幹線道路で、県内屈指の観光地である城崎温泉へのアクセス道路として利用される重要な路線である。

このうち、兵庫県豊岡市北部にあり一級河川円山川を渡河する「城崎大橋」(以下「旧橋」とする。)は、架橋から 70 年近く経過し、老朽化が進んでいるほか、幅員が狭く大型車の通行が制限されている道路通行上の問題、さらに基準径間長や桁下高の不足による河川管理上の問題など、多くの課題を抱えていた。

このことから約 1 km 下流で架け替え事業を行うとともに、円山川兩岸の取付道路を整備し令和 7 年 5 月 31 日に完成した。



【位置図】

2 事業目的: 安全・安心の向上

- ・新橋への架け替えによる流下能力の向上
- ・旧橋の重量制限による大型車通行不可の解消

旧橋は、昭和 31 年に架橋された橋長 238m の橋梁で、老朽化に加え、橋脚の間隔が 10m 程度と狭く橋桁も低いことから洪水の流下を阻害していたほか、狭小幅員(4.5m)、重量制限(10t)により大型車での通行が不可能と様々な課題を抱えていた。

今回の架け替え事業により城崎大橋は大型車が通行可能となった。



【旧橋の重量制限(10t)】



【平成 21 年台風 9 号による状況】

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

3 事業効果

(1) 観光周遊性の向上

- ・観光地「城崎温泉街」と「玄武洞」をつなぐ新たなルートを形成し、新たに路線バスの運行が開始
- ・整備中の「山陰近畿自動車道 城崎道路」の完成により、「(仮称)城崎温泉 IC」から「城崎温泉街」へのルートを形成



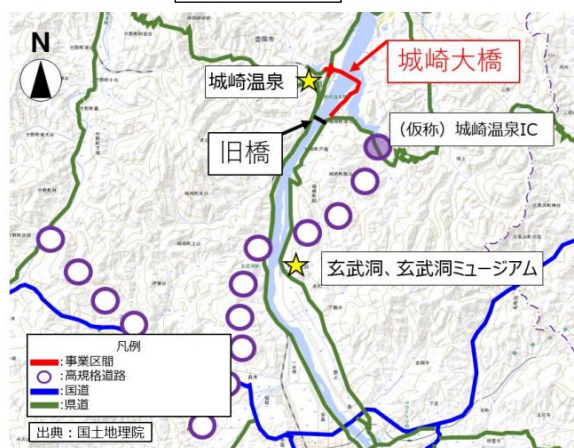
【城崎温泉】



【玄武洞】



【開通効果(大型車のルート短縮)】



【開通効果(城崎道路によるアクセス向上)】

「城崎温泉」と「玄武洞」間の観光バスの移動は、旧橋の重量制限もあり通行が不可能であったことから最短でも15kmの移動が必要であった。城崎大橋の開通により移動距離が9km短縮し、6kmとなり、観光周遊性の向上につながる。また、供用開始の翌日から城崎大橋を通る路線バスの運行が開始され、地元住民や観光客の新たな移動手段として利用されている。

現在整備中の「山陰近畿自動車道 城崎道路」にて「(仮称)城崎温泉 IC」が城崎大橋近隣に整備される予定となっており、より一層神戸・阪神間や関西圏から城崎温泉までのアクセスが向上し、多くの誘客が期待される。

(2) スポーツ振興の促進

- ・旧橋を撤去することにより、直線 2,000m のローイング(ボート)競技会場が設定可能



【ローイング(ボート)競技会場としての利用】



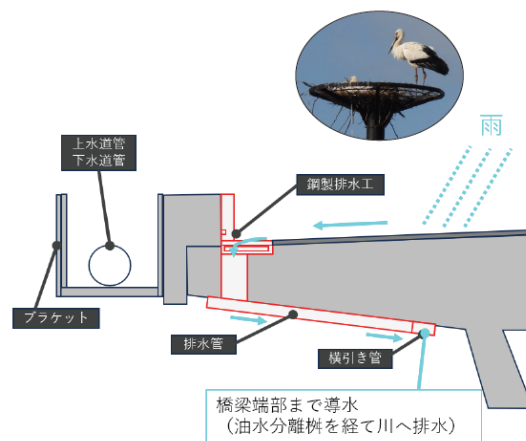
【ローイング(ボート)競技大会】

円山川は、緩やかな河床勾配などの地形の特徴からローイング(ボート)競技の会場として利用されている。現在は直線 1,000m のコース設定が可能で、インターハイ予選などで利用されている。旧橋を撤去することにより現在の倍の直線 2,000m のコース設定が可能となり、国内最上位のコースとして幅広い利用が期待される。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

4. 環境配慮への取組

兵庫県豊岡市はコウノトリの町として、コウノトリの生息地となるような湿地の保全活動が盛んに取り組まれている。城崎大橋付近には、ハチゴロウの戸島湿地と呼ばれるラムサール条約湿地に登録されている湿地があり、架橋にあたって環境への影響を十分に調査する必要があった。環境調査を行ったうえで学識者などからなる環境調査小委員会を設置し、周辺の環境に配慮した施工内容となるように施工計画に反映した。具体例として、橋上の路面排水は、橋梁の端部まで導水し、油などの不純物を除去したうえで円山川へ排水することなどを行った。



【排水装置図】

5. 終わりに

令和 7 年 5 月 31 日に城崎大橋は無事に開通し、開通を記念した式典には、地元住民を中心に約 500 名が集まり完成を祝った。

城崎大橋が城崎温泉への新たなゲートウェイに相応しいシンボリックな橋となり、兵庫県北部地域の安全・安心の確保や観光振興につながる道路になることを期待している。



【開通式の様子】